



**Fighting Nexus**

**OFFICIAL RULES**

**グラップリング**

## I. 試合

- 試合は主催者の認めたリングを使用する。
- 本大会の体重制限はストロー級(52.2kg以下)、フライ級(56.7kg以下)、バンタム級(61.2kg以下)、フェザー級(65.8kg以下)、ライト級(70.3kg以下)、ウェルター級(77.1kg以下)、ミドル級(83.9kg以下)、ライトヘビー級(93kg以下)、無差別級(無差別)の階級制で行う。ただし、対戦する双方と主催者の間で協議の上で契約体重を決めた場合は別とする。
- 試合は1ラウンド5分の1ラウンド制とし、延長戦は行わない。
- 競技者の試合時における着衣は、主催者・レフェリーによって事前に認可されたものでなければならない。
  - ・上半身は裸、もしくは体にフィットした着衣(柔術、柔道、空手等の道着の上着・オーバーサイズのTシャツ等は不可。)
  - ・ボクシング・キックボクシングで着用されているパンツ類
  - ・その他、事前に主催者・レフェリーが承認したあらゆる種類の着衣
- 試合に際して、エルボーパッド、ニーパッド、ニーサポーター、アングルサポーター、シューズは選手の任意で着用することができる。但し、ルールミーティングの際に着用する装備品を持参し、レフェリーのチェックを受けるものとする。
- バンテージ、テーピングの使用は選手の任意とするが、レフェリーのチェック及びサインを必要とする。
- 選手は、顔、髪を含め身体のいかなる部分にも、オイル、ワセリン、グリース、痛み止めやマッサージ用のクリーム等を塗布してはならない。また、いかなる理由においても、金属・プラスチック・研磨剤等が部分的にでも使用されたものは着用・装備してはならない。

## II. 勝敗

- グラップリングルールにおいては、以下の状況下で勝敗を決定する。
  - ・ギブアップ
    - マットか相手の体を3回以上叩くか、口頭でギブアップの意思表示をした場合
  - ・レフェリーストップ
    - レフェリーがこれ以上の試合続行は危険であると判断した場合、または双方の競技者の技術レベルに相当の開きがあると認識し、試合の続行が不可能であると判断した場合
  - ・ドクターストップ
    - リングドクターが負傷した選手の試合続行を不可能と判断した場合

a. 負傷の原因が相手の正当な攻撃、または負傷した選手自身にある場合、負傷した選手を敗者とする。

b. 負傷の原因が相手の反則による場合、負傷した選手を反則勝ちにする。

※負傷した選手のドクターチェックは、ニュートラルコーナーでレフェリー立ち会いのもとで行われ、セコンドがこれに介入することはできない。診断の対象ではない選手は、反対側のニュートラルコーナーで待機する。

・試合放棄

セコンドがタオルをリング内に投入した場合

・失格

1度目の反則に「注意」、2度目の反則に「警告」、それぞれにイエローカードが提示され、3度目の反則にはレッドカードの提示とともに「失格」とする。レフェリーは反則の回数に関わらず、悪質な反則行為には即失格とする権限を持つ。

・装備品破損

コスチュームなどの装備品が破損し、試合を続けられない場合は、失格となる。

・判定

全ラウンド終了時点で勝敗が決しない場合は、ジャッジ3名による判定に委ねられる。

・ドロウ裁定

判定の結果、両選手ともに2名以上の支持を得られなかった場合、引き分けとする。

・ノーコンテスト(無効試合)

a. 一方または双方に不正行為があった場合、もしくは第三者介入による不正行為が試合中に認められた場合、ノーコンテストとする。

b. 偶発的な事故等により試合続行が不可能となった場合、以下の通りとする。

→ 1 ラウンド中に試合続行が不可能となった場合、**全試合時間の半分を超過している場合にはその時間までの判定で決着する、半分以上を超過していない場合にはノーコンテストとする。**

### Ⅲ. レフェリーの指揮

- レフェリーの指示、裁定は絶対的なものであり、選手とセコンドは服従しなければならない。
- ロープ際の攻防で選手が落ちそうになったとき、またはロープが著しく攻防の妨げになっている場合、レフェリーはブレイクを命じ、リング中央で両者スタンド状態から試合を再開する。

- いかなるポジションの攻防であっても、レフェリーが膠着状態であると判断した場合、ブレイクを命じ両者スタンド状態から試合を再開する。
- 試合進行上、ルールに明記されていない不足の事態に際しても、レフェリーの決定に従わなければならない。

#### IV. 反則

- 以下の行為は全て反則とし、減点、失格の対象となる。
  1. 噛みつき
  2. 目つぶし、及び目をえぐる行為
  3. 頭突き
  4. 肘打ち
  5. 金的攻撃
  6. すべての打撃攻撃
  7. 肛門、口腔、鼻孔、眼球等の粘膜部に指を引っかけて相手をコントロールする
  8. 手足の指に対する関節技
  9. 消極的姿勢及び有効的でない攻撃を続ける
  10. 頭髪を掴む
  11. 相手をリング外へ投げる、または押し出すこと
  12. ロープを掴む、またはロープに手足を引っかける
  13. リング外へ逃げる
  14. 喉、または後頭部、延髄、脊髄への打撃攻撃
  15. 喉を掴む攻撃
  16. 自身または対戦競技者の着衣を掴んだりそれらを攻撃・防御に利用してはならない。

#### VI. その他

- セCONDは1名までとし、試合中は自軍のコーナーから離れてはならない。また、試合中セCONDが選手に直接接触した場合、そのセCONDの退場を命ずるか、そのセCOND側のレフェリーの選手に反則としての罰則を与える。

#### VII. その他 健康面

- ドクターチェックは大会当日、試合前に必ず受けるものとする。
- 本試合より45日以内に、あらゆる試合においてKO、もしくはTKOをされている場合は、本試合に出場できないこととなる。

以上